

(こくさいか山口 2005年10→12月号掲載記事)

～朝鮮通信使と下関～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
古川 力

去る9月6日から10日まで、釜山市で「2005年朝鮮通信使韓・日文化交流祝祭」が行われ、釜山市と姉妹都市であり、朝鮮通信使の縁故地でもある下関市からも関係者が参加しました。

朝鮮通信使は、朝鮮王朝当時の友好・善隣外交使節団で、その起源は日本の室町時代にさかのぼるとされていますが、戦国時代に入り自然消滅しました。慶長・文禄の役で豊臣秀吉軍が侵略、完全に関係が断絶していたのですが、両国の努力で始まりました。江戸時代(1607年～1811年)に計12回の使節団が来日しています。下関はその本州の玄関口として使節団が立ち寄った重要な縁故地です。

4年ほど前に下関市で朝鮮通信使の行列再現が行われ、昨年、本年は下関恒例の大イベント「馬関まつり」において華麗な行列再現が行われるなど、今や県内でも朝鮮通信使の知名度は急速に上昇していることと思います。

今年の馬関まつりでは、行列再現のほか、写真コンテストやプロモデルを招聘して「朝鮮通信使ファッションショー」なる新企画も行われ、好評を博しました。

韓国における朝鮮通信使の文化継承事業は、2002年3月、「朝鮮通信使行列再現委員会」が発足され、本年(2005)には社団法人「朝鮮通信使文化事業会」となり、通信使が残した足跡を見つめながら日韓の文化交流に力を注ごうというプロジェクトで、姜南周(カン・ナムジュ)執行委員長(釜慶大学校前総長)をはじめとして、常勤職員5名の方々が行事の企画や実施等のため、忙しく仕事に従事しておられます。

秋に釜山で行われている「韓・日文化交流祝祭」では、例年下関からも平家踊りチームなどが参加し、日本の文化ならびに下関の紹介を行っています。今年の行事では昨年に引き続き「馬関奇兵隊」という、市民サークルによる「よさこい踊り」チームが参加しました。



韓国各地で恒例行事となった朝鮮通信使行列再現
(提供：(社)朝鮮通信使文化事業会)



龍頭山公園から南浦洞をパレード

よさこい踊りといいますが、現在北海道から九州まで、全国的に流行している踊りですが、彼らの踊りの特徴は「地元下関を元気にすること」だそうです。地元の伝統芸能である「平家踊り」を踊りに組み込んだりするなどして、それをアップテンポの曲の中でとても元気に、素敵な笑顔で踊ることで、内外からも注目を集めておられるそうです。

彼らは今年の祝祭にも参加して、大好評でした。下関を代表する国際友好親善団体として、今回は、姉妹都市釜山の人々にも楽しんでもらえるよう、あの有名曲「釜山港に帰れ」をテーマに踊りを制作して臨みました。

トロット（韓国演歌）に代表されるとおり、韓国の人たちは老若男女を問わずアップテンポの音楽が大好きです。ノレバン（カラオケハウス）に行けば、テンポの速いトロット曲を歌いながらみんなで踊ります。1曲2曲ではありません。韓国には「NHKのど自慢」とほぼ同様の番組がありますが、日本のようにじっと座って聞いているのではなく、後ろで見ている人など関係なく、自分が気に入ったり感動したりすると立ち上がって踊り始める人たちがたくさんいます。そういったノリの人たちですから、よさこい踊りも始まるやいなや大拍手。「さあ、みんなで一緒に‘釜山港へ帰れ’を歌いましょう！」と掛け声がかかると、踊りだす人まで出てくるほどの大盛況でした。

招聘の人数制限もあって、わずか9人の踊り手でしたが、彼らの踊りは釜山市民の心を捉えたようです。公演が終わっても、次々と観衆の方々がやってきて「一緒に写真撮って下さい」。参加者にとっても釜山市民にとってもとてもいい思い出になったことと思います。そのような風景を見ながら、私も自分のことのようにうれしい瞬間でした。ひょっとすると近い将来、当地釜山でも「よさこいチーム」ができているかも知れません。



夜に龍頭山公園で行われたステージ公演(写真左)
パレードで後の組みとなった忠州女子商業高校のマーチングバンドと記念撮影(写真右)

さて、一方で本年は、関釜連絡船開設100周年という節目の年でもあります。

1905年9月11日に開設された関釜連絡船は、終戦の1945年までほぼ毎日運航されていた定期船舶路線です。現在は関釜フェリーと釜関フェリーという日韓の船会社の共同運営という形で1970年から復活していますが、連絡船の歴史は大変に古いものです。

その開設100周年という節目の本年に、朝鮮通信使文化事業会からの提案で「交流の海路100年」と銘打ち、関釜フェリー、釜関フェリー両社のご協力のもと、釜山から下関への便、下関から釜山への便とそれぞれの国際ターミナルにおいて行事が行われました。

本年は日韓国交正常化40周年、「日韓友情年」として様々な行事が展開中ですが、100年前は明治38年、現在とは想像もつかないほどのまったく異なる状況だったことでしょう。

行事では、当時帰国したくてもできなかった在日韓国人の方々や、韓国人男性と結婚しても自分の名前すら名乗れなかった韓国在住日本人妻の方々が相互訪問を行うなどして親交を深めました。

数日前、仕事の合間に釜山の国際ターミナルを通りかかった折、関釜フェリーを横目にしながら、35年間の関釜フェリーの歴史の重さを感じ、また、連絡船100年の歴史を再認識させられました。

下関市も合併して30万人、晴れて中核市となった訳ですが、釜山市は370万人、韓国第二の大都市です。同じ土俵では行事もなかなか行うことが難しいのが実情です。そういった中で実行委員会をはじめとして行事関係者の皆さんの熱心な働きかけのもと、馬関まつりでの行列再現や釜山での交流祝祭における関係者招聘が実現しています。このように「朝鮮通信使」を通じて日本と韓国、下関市と釜山市の相互訪問が行われることは、本当に喜ばしく、これからもこの行事を通じた国際交流を大切に育てていかなければならないと思っています。

昨年4月に2年間の予定で当地釜山に赴任し、あっという間に1年半が経ちました。この間、いろいろな場所でいろいろな人に出会い、違うようで同じ、同じようで違う韓国の様々な文化を見てまいりました。赴任当初はまだ日本もいわゆる「韓流」ブームに火のつき始めた頃。1年半経ってまた新たな局面を迎えていることでしょう。釜山でお迎えする下関の方々の中には私以上に韓国の人気歌手や俳優の名前をご存知の方々も増えているように思います。韓国が身近になっている人たちも恐らく私の想像以上に増えていることと思います。しかし一方で、東京よりも大阪よりも岡山よりも近い、その間たった200kmほどのこんなに近い国のことがまだ遠くに見えるといった人たちもたくさんおられることと思います。そのような方々が、何かをきっかけに韓国に触れてみることでしたら、素晴らしいと思います。下関における「朝鮮通信使」も、その一つとして貢献していると、確信しています。